

水球競技戦評

期日:平成30年8月17日(金)～20日(月)

会場:三重交通G スポーツの杜 鈴鹿 水泳場

ゲームNo

7

帽子の色 白

帽子の色 青

金沢市立工業高等学校

22

4	—	2
4	—	4
6	—	1
8	—	7
ps		

山形工業高等学校

14

審判1: 齋藤 好史

審判2: 佐伯 弘幸

戦 評

大会2日目の第1試合は石川県・金沢市立工業高校と山形県立山形工業高校の対戦であった。両校とも水球界では知らないものはいないというほどの強豪の工業学校である。金沢市立工業はアジア大会日本代表に高校生ながら選ばれている宮澤拓夢君がキャプテンとしてチームを率いる。対する山形工業はこれまで男女ともに数多くの大会で勝利を収めており、同校出身の選手として男子ではロンドンオリンピック予選日本代表に長沼敦選手、女子ではアジア大会代表に曲山紫乃、細谷香奈の2選手を輩出している。

第1ピリオドは山形工業⑤本田君がセンターボールを取り攻撃権を得るが、最初にチャンスを迎えたのは金沢工業。⑨宮澤拓夢君がゴール前で半身抜けたところにボールが入るがハンドオフの反則を取られてしまう。対する山形工業はその裏にチャンスを迎える。7:25山形工業⑤本田君が退水を誘発し、タイムアウトから6対5の退水セット。山形工業先制のチャンスであったが、金沢工業ゴールキーパー三谷君が2連続セーブで切り抜ける。先制点は金沢工業。⑤新田君がカウンターからゴールを奪う。対する山形工業も⑪村岡君がゴール前からシュートを放ち同点のゴールを挙げる。

第2ピリオドも⑨宮澤拓夢君の活躍で金沢工業がリードする。6:58に⑨宮澤拓夢君が退水を誘発すると、自ら右サイドからシュートを放ちゴールを奪う。2:05には⑧原君からパスを受けた②浦君が右サイドシュート狙うとみせかけ、ポストイングしていた⑨宮澤拓夢君へパスを落とし、そのまま左腕を振り抜きシュート。⑨宮澤拓夢君はこのピリオドだけで4得点を挙げている。対する山形工業も⑤本田君が魅せる。6:27にゴール前で退水を誘発し、④鈴木君のゴールに繋げる。さらに、5:24には左45度の位置にいた④鈴木君からゴール前に陣取った⑤本田君がパスを受け、反転しシュート。5対4の1点差に詰め寄る。2点リードで迎えたピリオドの終わり、金沢工業②浦君が右45度で持ち込むが、ファールが取れなくチャンスが作れずにピリオド終了を迎える。

第3ピリオドの出だしは金沢工業。②浦君が右サイドからディフェンスの間を抜くシュートを決めて3点差にリードを広げる。追いつくが山形工業は⑪村岡君が左ポストで退水を誘発、②東海林君が左サイドからキーパーの腕をかすめてゴール。再び2点差とする。2:47には山形工業⑤本田君がシュートを打ちながらもゴール前で退水を誘発する。しかし、そこは金沢工業がしっかりと守り、反対にカウンター攻撃を仕掛ける。左サイドを駆け上がった金沢工業⑤新田君が決めて4点にリードを広げた。⑤新田君は0:35にも、潰されながら⑨宮澤拓夢君へアシストパスを通す活躍を見せた。

第4ピリオドは金沢工業が盤石の体制に入る。7:20に7点差とリードを広げると、これまでほとんど出突っ張りだった選手を交代させる。その間に追いつきたい山形工業は、⑪村岡君が退水を誘発、③加藤君からパスを受けた②東海林君が左サイドでワンタッチのバウンドシュートを放ちゴールを決める。4:46に⑤本田君が金沢工業ディフェンスを振り切り得点を決めると、3:47には奇襲に出る。⑤本田君がキーパーからボールを奪いシュート。再び5点差まで詰める。しかし、最後は力及ばず。残り22秒には金沢工業⑩宮澤希望君がゴール左下にシュートを決め、工業高校対決は金沢市立工業高校に軍配が上がった。

金沢工業は⑨宮澤拓夢君のプレーが圧巻であった。潰されても潰されてもポジションを取り、ゴールに向かう姿勢は、さすが日本代表と言えよう。さらに、宮澤拓夢君だけでなく、②浦君、⑧原君と外周からの得点源が存在しているところは、対戦相手に威圧感を与える。敗れた山形工業も②東海林君一人で金沢工業⑨宮澤拓夢君を守る健闘を見せた。この試合で4得点を挙げている⑪村岡君はまだ1年生である。今後の成長に期待したい。

記載者

荻野 浩明

水球競技戦評

期日:平成30年8月17日(金)～20日(月)

会場:三重交通G スポーツの杜 鈴鹿 水泳場

ゲームNo

8

帽子の色 白

帽子の色 青

柴田高等学校

7

2	—	11
0	—	11
2	—	7
3	—	6
ps		

秀明英光高等学校

35

審判1: 黒崎 千智

審判2: 伊藤 晃二

戦 評

2年連続13回目の出場となる柴田高校。対する秀明英光は昨年度の決勝戦で接戦の末に準優勝となり、今年はその雪辱を晴らしたい。

第1ピリオドは柴田④大野君がセンターボールを取り試合開始。そのボールをゴール前までつなぐが、シュートを打つことができなかった。秀明英光の強烈なプレッシャーの前に、柴田の選手は動きが堅く緊張している様子が見られた。なかなかシュートチャンスを作れない柴田に対し、秀明英光はパスカットからカウンターアタックを仕掛け、7:14⑥千歳君の得点を皮切りに、⑦青山君、③小見君と連続3得点を挙げる。柴田も必死の攻撃で、5:05、ディフェンスの一瞬の隙きを突いて⑧加野君が得点した(1-3)。その後も秀明英光の勢いは止まらないが、0:52柴田④大野君のフローティングでのシュートはキーパーの頭上を抜き、必死の抵抗を見せた(2-9)。

第2ピリオドも開始直後から秀明英光が得点を挙げ、1分30秒で3得点を挙げた(2-14)。柴田は④大野君と⑧加野君で攻撃を組み立て得点チャンスを狙う。少しずつディフェンスのプレッシャーに対応できるようになってきた柴田は⑧加野君が決定的なチャンスを作るものの、秀明英光①ゴールキーパー中塚君の好セーブで得点できない。これが第2ピリオド柴田の唯一の好機であった。秀明英光のディフェンスはよく連携が取れており、柴田は有効な攻撃ができない。その間も秀明英光は攻撃の手を緩めず、このピリオド11得点を挙げ、2-22と一気に試合の勝敗を決めた。

第3ピリオド、開始直後に秀明英光⑨コップ君が個人技でボールをゴール前まで持ち込み得点する。このピリオドも秀明英光の猛攻が続くことを予感させた。7:13、柴田⑧加野君が相手ゴールキーパーからボールを奪い、そのまま退水を誘発。絶好のチャンスに④大野君が放ったシュートは無情にも枠を捉えることができなかった。秀明英光はカウンターアタック攻撃を中心に⑪中村君、⑦青山君、④後藤君、⑩角野君、⑧竹村君と得点を重ねる(2-28)。柴田は④大野君がカットインからゴールを奪うと、⑧加野君も退水セットでの攻撃で見事なゴールを決めた(4-29)。

第4ピリオドも開始直後に秀明英光②江利川君がゴールを奪う。一方の柴田も⑧加野君が退水オフenseで得点を挙げる。双方交互に得点を重ね、ピリオドの前半は一進一退の攻防が続いた。しかし、自力で勝る秀明英光が最後まで攻撃の手を緩めず、終わってみれば7-35と大差の試合となった。しかしながら、試合の最終盤にも④大野君が5mシュートを力強く決めるなど、強豪相手に最後まで諦めずに攻め続けた柴田の姿勢は立派であった。

試合の最後まで集中力を切らさず、攻撃の手を緩めない秀明英光はやはり強豪校と呼ぶのにふさわしい試合内容であった。その攻撃力もさることながら、よくボールの見て次の展開を予測して相手の攻撃を許さないディフェンス力も相当に高い。これからの試合では、攻撃力だけではなく秀明英光のディフェンスにも注目したい。

記者者

村瀬 陽介

水球競技戦評

期日:平成30年8月17日(金)～20日(月)

会場:三重交通G スポーツの杜 鈴鹿 水泳場

ゲームNo

9

帽子の色 白

帽子の色 青

鳥羽高等学校

17

3	—	0
4	—	3
6	—	2
4	—	1
ps		

向陽高等学校

6

審判1: 井上 嘉隆

審判2: 佐伯 弘幸

戦 評

本日の第3試合は、昨日のオープニングゲームを制した鳥羽高校と向陽高校の同ブロック対決となった。近畿予選では対戦しておらず、今年度公式戦はじめての顔合わせとなった。

第1ピリオド鳥羽⑦藤原君がセンターボールを取るとすぐに⑩渡邊君がミドルシュートを放つところから試合が始まる。試合が動いたのは5:57鳥羽⑥岡本君の左サイドからのシュートで先制。向陽も④山本君が退水を誘発し、すぐにリターンパスを試みるが、鳥羽がパスカット。3:13鳥羽④藤井君がフローティングから振り返ってシュート。2:46向陽はターンオーバー中に退水を誘発しタイムアウト。確実に決めて1点を返したいところであったが、決めきれず、逆に鳥羽がカウンターから⑩渡邊君が決める。0:06向陽⑥河合君がペナルティファールを誘発し、自らシュートを打つも鳥羽のゴールキーパー①岡田君がナイスセーブ。向陽は点がほしいところで決めきれず3-0鳥羽3点リードで第1ピリオド終了。

第2ピリオドも鳥羽のボールから開始。6:28鳥羽⑩渡邊君が決めると、6:08向陽⑥河合君が5mシュートで得点。鳥羽はカットインやカウンターでゴールを狙うが、向陽のゴールキーパー①中西君がよく止め得点を許さない。3:57鳥羽⑩渡邊君、3:40向陽サウスポーの②木村君、3:05鳥羽⑦藤原君が得点、2:47には向陽②木村君がペナルティを誘発し、自ら決める。0:52鳥羽⑫本部君が決め、このピリオド4-3で終了。鳥羽はすべての得点をカウンターから挙げた。

第3ピリオドも鳥羽ボールで開始。第1・2ピリオドとは異なり、今度はじっくりと攻める。鳥羽⑩渡邊君、⑥岡本君が連続得点し、9-3とリードが広がっていく。6:00向陽⑥河合君が2人に囲まれたところを上手く回しこみ退水を誘発し、タイムアウト。このチャンスを②木村君がしっかりと生かし得点。さらに5:29ターンオーバー中の退水からチャンスを得るが、これは生かしきれず、逆に鳥羽がカウンターをだし⑤山本君が決める。その後、カットインから鳥羽④藤井君、フローターから向陽②木村君、カウンターから鳥羽⑩渡邊君、パワープレー中に鳥羽⑦藤原君が決め、このピリオド6-2、合計13-5と鳥羽が8点リードで終える。

第4ピリオド、早い段階で得点がほしい向陽だが、鳥羽が3連続得点。これで意気消沈したかと思えたが、向陽は4:25⑤鈴木君がフローターから得点を挙げ、全員でガッツポーズ。まだまだ諦めていない。1:48向陽は第3ピリオドと同様にパワープレーを確実に得点するため、タイムアウトを取るが得点ならず。1:20鳥羽得意のカウンターアタックを⑫山本君が決め、試合終了。

鳥羽高校は、伝統の粘り強いディフェンスから得点を重ねベスト8を決めた。明日は日本代表フローターの宮澤君を中心とした金沢市立工業高校との試合となる。どのように守り、勝利を目指すのか。向陽高校は、キーパーを中心によく鳥羽の攻撃を防ぎ、少ない人数でチャンスを作り出して勝機を見出していた。そして、何より最後まで諦めない姿に感動を覚えた。

記者者

清水 信貴

水球競技戦評

期日:平成30年8月17日(金)～20日(月)

会場:三重交通G スポーツの杜 鈴鹿 水泳場

ゲームNo

10

帽子の色 白

名古屋高等学校

6

0	—	8
2	—	4
1	—	5
3	—	4

ps

帽子の色 青

埼玉栄高等学校

21

審判1: 山崎 昇

審判2: 伊藤 晃二

戦 評

2回戦第6試合は愛知県・名古屋高校と埼玉県・埼玉栄高校の対戦であった。名古屋高校は文武両道ではあるものの、学習に重きをおく学校であり、練習時間が少ない中で代表権を獲得してきた。対する埼玉栄高校は1回戦で広島県・修道高校を17対6で退けている強豪校である。

第1ピリオドは埼玉栄⑥中山君がセンターボールを奪い攻撃権を得る。お互いにしっかり泳いで相手陣内に攻め入るが、得点ならず。均衡を破ったのは埼玉栄。6:49埼玉栄⑦太田剣弥君がゴール前からシュートを放ち先制点を挙げる。ここから埼玉栄の猛攻が始まる。⑥中山君が左45度の位置からゴール右隅へハーフループシュートを決めると、3点目は左サイドの③大村君から⑥中山君へサイドチェンジ。最後は中央へボールを落とし⑦太田剣弥君が反転してシュートを決める。その後も②今君が左45度からうまく回転をかけてゴールキーパー頭上を超えるシュートを放ち、リードを広げた。対する名古屋も、守ってはゴールキーパー大谷君がゴール正面からシュートを打たれる絶体絶命のピンチを防ぎ、攻めては④浅野君を起点にチャンス进行うが、得点に繋がらない。

第2ピリオド、先に得点を奪ったのは名古屋であった。ディフェンスの要、⑤山口君がトップの位置から攻撃の要④浅野君にパス、そのまま体を反転させてゴール左下にシュートを決める。しかし後が続かない。このピリオド、3回の退水攻撃、うち1回は埼玉栄側が2人同時に退水となるチャンスを迎えるが、1度も決められないで終わってしまった。反対に埼玉栄は退水のチャンスを⑥中山君が左サイドから相手ディフェンスの脇を抜いてバウンドシュートを決めて突き放しにかかる。8点差が開いたところで、埼玉栄は選手を交代させる余裕の試合運びを見せる。その間になんとか点差を詰めた名古屋は残り2秒、⑫北村周時君が放ったシュートを相手ゴールキーパーが弾いたところを②梅村君が詰めてシュート。2点目をチームにもたす。

第3ピリオド開始早々、埼玉栄④藤井君が5m付近からゴールキーパーの脇を抜くシュートで得点を重ねる。対する名古屋はカウンターのチャンス。⑫北村周時君が右サイドを攻め上がり、栄ディフェンスが引いたところを落ち着いて折り返して②梅村君がゴールネットを揺らす。しかし、ペースは依然として埼玉栄。二人退水のチャンスから⑤原子君がゴールを決めると、②今君は左にディフェンスを背負いながらもゴール左隅へシュートを決める。さらに⑤原子君は右サイドの⑧太田陸渡君からパスを受けるとワンタッチでシュート。ゴールキーパーの頭上を抜く技ありシュートを決めた。

第4ピリオドも埼玉栄が猛攻を続ける。相手のパスミスから④藤井君、③大村君、⑤原子君が得点を重ねる。名古屋も7:24に⑤山口君が右サイドへキーパーの腕をかすめるミドルシュートを決めて4点目。さらに④浅野君がバックハンドでのシュートを2本決める。しかし、反撃もここまで。埼玉栄が実に21得点を挙げて勝利を収めた。

カウンター攻撃もよし、フローティングしてもよし、カットインしてもよしと多彩な攻撃パターンを有する埼玉栄に対し、名古屋は最後の最後まで敵陣深く攻め入り、ゴールを狙い続けた。水球はゴールを奪うスポーツであるの言うまでもない。敗れた名古屋高校ではあるが、敗者の美学をみた一戦であった。

記載者

荻野 浩明

水球競技戦評

期日:平成30年8月17日(金)～20日(月)

会場:三重交通G スポーツの杜 鈴鹿 水泳場

ゲームNo

11

帽子の色 白

帽子の色 青

長浜北星高等学校

9

2	—	3
1	—	2
4	—	3
2	—	4
ps		

那覇西高等学校

12

審判1: 福元 寿夫

審判2: 黒崎 千智

戦 評

第1ピリオド、長浜⑦森川君がセンターボールを取り試合開始。那覇西はセンターポジションを二人でマークするディフェンス。一方の長浜はセンターポジションに限らず、ボールマンに積極的に二人でプレッシャーをかけてスチールを狙う。お互いレベルの高いディフェンスのなか、那覇西のシュートミスで長浜はカウンターアタックで返し⑥佐藤瑠君がゴールを決めた(5:35、1-0)。那覇西はその直後のオフenseで③仲本虎次郎君がセンターポジションでゴールを決め(5:14、1-1)、一進一退の好ゲームを予感させる。那覇西は③仲本虎次郎君、④砂邊君、⑥仲本駿之介君が入れ替わりセンターポジションで攻撃し、長浜のディフェンスを攪乱する。長浜の退水オフenseでは⑦森川君が強気のシュートをねじ込み再びリードした(4:02、2-1)。その後那覇西は④砂邊君の連続得点で1点リードして第1ピリオドが終了した。

第2ピリオド、長浜がセンターボールをとり、一瞬の隙きを突いて⑤山瀬君がゴール前に飛び出してシュートを打つが、那覇西ゴールキーパーの伊波君がスーパーセーブ。那覇西はその次の攻撃で⑥仲本駿之介君が技ありのループシュートを決めた(7:22、2-4)。6:41にも③仲本虎次郎君からの絶妙のパスを受け、④砂邊君がゴール(2-5)。長浜も積極的に攻めるがゴールキーパーに阻まれなかなか追いつくことができない苦しい雰囲気の中、⑧佐藤誠君がミドルシュートを決める。那覇西は攻撃が慎重になりシュート本数が少なくなってきた。終了間際残り4秒で長浜③桐畑君が退水を誘発し、第2ピリオドが終了した。

第3ピリオド、なんとしても退水オフenseで得点を挙げたい長浜は、センターボールを取りすかさずタイムアウト。この攻撃は那覇西が守りきるものの、攻撃の1本目のパスをカットした長浜②横田君がそのままドリブルで攻め上がりゴールを決め(7:15、4-5)、一気に長浜の追い上げムードになる。追いつかれたくない那覇西は③仲本虎次郎君が退水を誘発しタイムアウト。この退水オフenseは見事なパスワークを披露し、⑤大場君が押し込み長浜の追撃を許さない(4-6)。その後も那覇西が連続で得点を挙げて4点のリードとするも、長浜は3連続得点で1点差まで追い上げ、完全に試合の流れをものにした。

第4ピリオドも意地もぶつかり合いが続く。双方ミスのない緊張感のある展開が続くなか、那覇西⑤大場君が5mシュート、③仲本虎次郎君がミドルシュートを決め試合を決めにかかる(7-10)。しかし長浜も⑧佐藤誠君が退水オフenseでシュートを決め追いつがる(8-10)。残り1:36那覇西⑥仲本駿之介君がセンターポジションでゴールを決めると、1:26長浜⑤山瀬君もカットインからゴールする。最後は0:28に那覇西③仲本虎次郎君がカットインからゴールを決めて試合を決めた(9-12)。

先制した長浜を那覇西が逆転し、最後まで再逆転をかけて激しい攻防が繰り広げられたこの試合は、一瞬も目の離せない好ゲームであった。また両監督もタイムアウトを戦略的に使っていたこともこの試合の特徴であった。体力、知力、精神力のすべてがぶつかりあった戦いは、観客に水球の魅力を十分に披露したのではないだろうか。

記載者

村瀬 陽介

水球競技戦評

期日:平成30年8月17日(金)～20日(月)

会場:三重交通G スポーツの杜 鈴鹿 水泳場

ゲームNo

12

帽子の色 白

帽子の色 青

四日市中央工業高等学校

13

2	—	1
5	—	3
4	—	3
2	—	4
ps		

聖カタリナ学園高等学校

11

審判1: 齋藤 好史

審判2: 佐藤 國寛

戦 評

大会2日目の最終試合は、地元四日市中央工業高校VS昨日前橋商業高校に競り勝ち、勢いに乗る聖カタリナ学園高校の対戦となった。

大声援の中、四中工⑥原君がセンターボールを取り、第1ピリオドが開始される。その直後の攻撃で右上から③谷君が豪快にミドルシュートを決め先制。再開から聖カタリナ⑦山下君がカットインで得点。点の取り合いになるかと思われたが、お互いシュートを決めきれず我慢の時間帯が続く。0:57四中工③谷君がこの試合2回目の得点を決める。ピリオド2-1、四中工1点リードで終了。

第2ピリオドは聖カタリナ⑥宇都宮君がセンターボールを取り開始。このピリオドも先制したのは四中工。パワープレー中に③谷君が左サイドからしっかりと決める。③谷君の勢いは止まらず6:13にもミドルシュートを決め、ここまでチームすべての得点を叩き出す。聖カタリナは、5:49⑤安田君の5mシュートで得点し離されない。5:19四中工④畑君がこぼれ玉を拾いシュートを決めれば、2:40⑦後藤君もミドルシュートを決め、四中工に流れが傾く。堪らず聖カタリナはタイムアウト。集中した聖カタリナは、③島田君が角度のない所から決め、流れを渡さない。その後、四中工④畑君、聖カタリナ④松田君が決め、このピリオド5-3、合計7-4の四中工3点リードで前半を終える。

第3ピリオドは四中工が最初の攻撃権を得る。先制したのはこのピリオドも四中工。6:10④畑君のミドルシュートが突き刺さる。負けじとパワープレー中に聖カタリナ⑤安田君が決める。その後、四中工④畑君、⑦後藤君、③谷君が3連続得点を挙げ、聖カタリナを突き放しにかかる。ここで聖カタリナはタイムアウト。第2ピリオド同様にタイムアウト後に息を吹き返したかのように聖カタリナ⑤安田君が退水を誘発し、そのチャンスを自分自身で決める。さらに、ピリオド残り0秒⑥宇都宮君がゴール前で踏ん張って得点。このピリオド4-3、合計11-7四中工4点リードで終える。

第4ピリオド、どちらも先取点がほしいところだがこのピリオドも四中工④畑君のシュートで先制。5:04にはパワープレー中にまたまた④畑君が決める。4:46聖カタリナ⑥宇都宮君のゴール右隅に突き刺さるミドルシュートを決める。⑦山下君、④松田君も続き、3連続得点を挙げる。四中工はタイムアウトで落ち着こうとするも、聖カタリナの勢いは止まらず、カウンターで⑦山下君が得点。ここにきて4連続得点。残り時間1:43、合計得点13-11、四中工2点リードだが、どうなるか分からない展開。しかし、聖カタリナはその後果敢に攻め続けるがシュートが決まらず、そのまま試合終了。

地元の期待を背負って臨んだ試合に見事勝利を収めた四日市中央工業高校は、明日前年度準優勝の秀明栄光高校に挑む。この試合負けはしたものの、初めてのインターハイ出場で1勝を挙げた聖カタリナ高校の今後に期待したい。水球は面白いと感じさせてくれる一戦であった。

記者者

清水 信貴